

【別紙様式 I】 令和5年度 学校評価報告書

学校名 小鮎小 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 江上 純子

学校教育目標

学校経営の方針

豊かな心と、たくましく生きる力をもった児童が育つ学校

こ:根気強く自分で考える子 あ:明るく元気な子 ゆ:豊かな心で思いやりのある子
「自分で考え 共に学び みんなが楽しい」～生きて働く確かな学力の向上を目指して～

今年度の重点目標

- 【A:まなびグループ】 主体的に学ぶ力の育成 思考・判断・表現力の育成
【B:からだグループ】 自分の命は 自分で守る
【C:こころグループ】 思いやりの心 互いに認め合う心
【D:チーム小鮎】 地域とともにある学校 児童主体の特別活動

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
【A:まなびグループ】 主体的に学ぶ力の育成 思考・判断・表現力の育成	1・2・3	○授業改善 ○読書活動の充実 ○情報活用能力の育成	◇授業改善及び教師の授業力向上を目指し、「総合的な学習の時間」についてや「社会」「図工」「体育」の実技研修などを実施することができた。 ◇校内研究において、「自分で考え、共に学び、みんなが楽しい～数学的活動を通した思考力・判断力・表現力の育成～」の研究テーマの実現を目指し、教材研究や研究協議を通して、授業改善に努めた。 ◆個別最適な学習の推進のためのICT機器の活用が課題に残る。	・インクルーシブ教育の視点から、授業のユニバーサルデザイン化や、個別最適な学習環境の整備に努め、子どもたちの学力向上を目指す。 ・子どもが主役の学校づくりに努め、子どもたちの声を聴き、子どもたち主体の授業づくりを進める。 ・個別最適な学び及び協働的な学習を推進するために、Chromebookをはじめとした、ICT機器を効果的に活用していく。
【B:からだグループ】 自分の命は 自分で守る	1・2・3	○健やかな体づくり ○自他の命を大切にする ○きれいな学校づくり	◇感染症対策でできなかった集団での体力づくりを実施することができた。 ◇年間を通して、計画的に食育をおこなうことができた。学校保健委員会と連携しながら保護者と共に考えたり、給食の時間の放送をしたり、栄養士がゲストティーチャーとして授業に参加したりすることにより、牛乳などの残食を減らすための取組を行うことができた。 ◆きれいな学校づくりについては、課題が残る。	・さらなる充実を目指し、体力向上、食品ロスへの取組の継続や基本的生活習慣の確立、清掃活動の見直しを行っていく。

【C:こころグループ】 思いやりの心 互いに認め合う心	1・2・3	○インクルーシブ教育の推進 ○児童指導・支援体制の充実 ○道徳人権教育の充実	◇やまびこ、あゆっこ、サポートタイムなどの活用で支援体制づくりが確立できた。また、職員間の情報共有も定着してきた。 ◇人権週間では、朝会や昼の放送、挨拶運動の推進など様々な活動を実施することができた。 ◆子どもたちや保護者の皆さんと、様々なリソースルームでの取り組みや、支援体制についての共有に課題が残った。	・「児童の思い」や「児童の声を聴く」体制を整え、インクルーシブ教育のさらなる充実を目指しながら、児童に思いやりの心を育てていく。 ・「いじめ0」「暴力0」を常に意識した学校づくりに努める。 ・「インクルーシブ教育」があたり前の学校として、全ての教育活動で一人一人が大切にされ、みんなが楽しい学校づくりをめざす。 ・学校HPなどを使い、小鮎小学校としての支援・指導体制を知っていただく。
【D:チーム小鮎】 地域とともにある学校 児童主体の特別活動	1・2・3	○地域と共にある学校づくり ○児童主体の特別活動 ○安全教育の推進	◇「地域とともにある学校づくり」では、各学年で関係機関や応援し隊との連携を図ることができた。 ◇運動会やあゆっこ集会、6年生を送る会など行事や特別活動を通して、児童が主体的に活動する力の育成に努めた。また、野球選手から寄贈されたグループを使った取組では、児童会が中心となって様々な計画を立てることができた。 ◇火災や地震が発生した際の避難訓練を行うことができた。また、予告なしの避難訓練や休み時間に地震が発生したという想定での訓練など、実生活に即した、また、子どもたちに生きる力を身に付けさせることができるような取組を実施することができた。 ◆地域との連携においては、身に付けなければならない資質能力について学校と地域で共有した上で、学習を展開する面において課題が残った。	・年度当初から年間指導計画を作成し、更に、準備段階から地域の方々と共に協力しあい、実施していく。 ・児童主体の学級活動や特別活動にも力をいれていく。 ・様々な状況を想定した訓練を実施することで、災害などから臨機応変に自分の命を守ることができるような資質能力の向上を図る。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

ピンクベストを着た応援し隊が、学校生活の中の様々な場面で子どもたちのために活動することができた。
今後、普段の授業や活動でより気軽に子どもたちと関われる機会があればいいと考える。その中で、ピンクベストを着用した地域の人たちが、たくさんの子供と話し、褒めたり叱ったり、受け入れたりすることで、子どもたちの自己肯定感を高めていきたい。また、地域として、子どもたちに顔を覚えてもらう、安心感をもってもらうという中で、「見守ってくれている人」「相談できる人」「安心できる人」を増やしていきたい。ただ、応援し隊の勧誘や紹介の仕方については考えていかなければならない。
学校は担任一人で動いているのではなく、組織で動いているということ、また、地域とともに学校を創り上げるために組織された応援し隊のことなどを積極的に保護者や地域に周知してほしい。また、地域と共に創り上げる授業を展開するにあたって、授業者が見通しをもち、計画的に実施してほしい。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

学校教育目標の実現のため、めざす児童像を教職員、児童、保護者、地域と共通理解して取り組んできた。

インクルーシブ教育の推進のため、豊かな心が育ち、一人一人が自分の良さを伸ばし、たくましく生きる力が育つ教育環境の土台作りに努めてきた。また、いじめ認知について全校職員での共通理解、1学期の児童指導全体会での研修、毎月「0」のつく日に、ピンクベストを着用し「いじめ0」を啓発するピンクシャツデーの実施などいじめを防止するための対策を講じてきた。

全教職員が全児童を支援する体制として、サポートタイム(全教職員で全児童を指導・支援する体制)という支援体制の構築に努めた。

地域学校協働活動を推し進めるために、「総合的な学習の時間」についての研修や拡大学校運営協議会、全教職員での単元計画の作成会議を実施した。

教材研究、研修の時間を確保するために、学年担任制や教育課程の工夫、勤務時間の明確化、ペーパーレス化、グループ活動の活性化、総括のリーダーシップ、児童指導・支援の記録の一元化など働き方改革を進めてきた。

次年度も今年度同様「豊かな心と、たくましく生きる力をもった児童が育つ学校」を目指し、子どもが自分で考え、主体的に学習ができるように授業改善に取り組む。さらに、子どもが、友達や教師、地域の方々など、様々な人と協働的に学ぶ力が育つよう、「生活科」や「総合的な学習の時間」、「特別活動」の時間について工夫をしていく。

一人一人が自分の良さを伸ばし、いきいきと課題に対して根気強く学ぶことができる力の育成を目指し、学習環境と教育課程をつくる。また、自分の健康や体力や環境の課題について、自ら考え行動、解決できる力の育成に努める。

自他の命や人権を大切にし、多様性を尊重し、互いに認め合うことのできる思いやりの心が育つ温かい学校づくりを目指すとともに、全教職員の協働体制と学校、保護者、地域、外部専門機関との連携により、子どもたちを育み、チームとして子どもたちの自己肯定感を上げるために活動する。

「誰一人取り残すことのない」支援体制、互いに認め合い、思いやりのある行動ができる子どもが育つ人間関係づくりの取組、授業づくりでは、ユニバーサルデザインを取り入れた個別最適な学びと協働的な学びを推進していく。

地域との連携をさらに深め、社会に開かれた教育課程の実現を目指し、「地域学校協働活動」の推進に努める。また、放課後の時間に、子どもたちが楽しい時間を過ごすことができるように、地域で子どもを育て見守る場をつくっていく。